

令和4年度 ICT を活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業研究発表会 次第

日時：令和4年12月21日（水）

9：30～12：30

場所：兵庫県立神戸特別支援学校
（テレビ会議システム併用）

1 開会行事（9：30～9：40）

- (1) 開会挨拶
- (2) 会場校長挨拶

2 事業説明（9：40～10：00）

兵庫県教育委員会事務局特別支援教育課

主任指導主事兼教育推進班長 乗松 宏美

3 授業参観（録画）（10：00～10：30）

「児童生徒の実態に応じた ICT を活用した自立活動の取組」

兵庫県立神戸特別支援学校 教諭 峯松 徹

4 報 告（10：30～11：10）

「肢体不自由教育における遠隔システムを活用した自立活動の効果的な指導」

兵庫県立神戸特別支援学校 教諭 峯松 徹
（教諭 来嶋剛・柳本いずみ）

（休 憩）

5 パネルディスカッション（11：20～12：20）

「遠隔による指導を効果的に活用した自立活動及び関係者の連携等について」

コーディネーター：関西学院大学教授 教 授 丹羽 登

パネリスト：（研究指定校）

兵庫県立あわじ特別支援学校 主幹教諭 古田 文

兵庫県立姫路聴覚特別支援学校 教 諭 山下 豊久

兵庫県立神戸特別支援学校 教 諭 峯松 徹

助 言 者：兵庫教育大学 准教授 小川 修史

6 閉会行事（12：20～12：30）

- (1) 事務連絡

- ・ アンケート <https://www.e-hyogo.elg-front.jp/hyogo/uketsuke/form.do?acs=ictjiritu>
- ・ ひょうごつながる e-ブック（仮称）

- (2) 閉会挨拶



アンケート

令和４年度ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業研究発表会 開催要項

1 趣 旨

本県では、今年度から ICT を活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業を文部科学省の委託を受け、実施している。本事業では ICT 機器の効果的な活用を進める中で、９校の研究校を指定し、遠隔システムを利用した障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための自立活動の指導及び遠隔による通級による指導について研究し、障害のある児童生徒の学びと ICT 等を効果的に活用した自立活動の指導に関する啓発及び教員のさらなる資質向上を目指し、取り組んでいる。

本研究発表会では、ICTを活用した自立活動の実践発表、研究協議等を行うことで、各校での効果的な実施に資することを目的とする。

2 日 時

令和４年12月21日（水） 9：30～12：30（受付 9：15～）

3 会 場

兵庫県立神戸特別支援学校

〒651-1144 神戸市北区大脇台10-1

TEL (078)592-6767

※テレビ会議システムを併用した開催とする

4 対 象

〈会場及びテレビ会議システムでの参加〉

- ・ ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業検討会委員
- ・ 令和４年度ICTを活用した自立活動の調査研究事業研究指定校関係者

〈テレビ会議システムでの参加〉

- ・ 教育事務所特別支援教育担当者等（１名）
- ・ 各市町組合教育委員会担当者、特別支援学級・特別支援学校担当者、特別支援教育コーディネーター等（２名以内）
- ・ 県立特別支援学校（１名）

5 日 程

9：30～9：40 開会行事

9：40～10：00 事業説明

10：00～10：30 授業参観（録画）

「児童生徒の実態に応じたICTを活用した自立活動の取組」

10：30～11：10 報 告 県立神戸特別支援学校

「肢体不自由教育における遠隔システムを活用した自立活動の効果的な指導」

11：10～11：20 休 憩

11:20～12:20 パネルディスカッション

テーマ「遠隔による指導を効果的に活用した自立活動及び関係者の連携等について」

コーディネーター：関西学院大学教授	教 授 丹羽 登
パネリスト：（研究指定校）	
県立あわじ特別支援学校	主幹教諭 古田 文
県立姫路聴覚特別支援学校	教 諭 山下 豊久
県立神戸特別支援学校	教 諭 峯松 徹
助 言 者：兵庫教育大学院	准教授 小川 修史

12:20～12:30 閉会行事

6 参加申し込み

出席者名簿を12月9日（金）までに電子メールにて返信ください。

7 その他

〈会場での参加の場合〉

- ・公共交通機関で来場ください。
- ・靴袋、上履き等を持参ください。
- ・名札とマスクの着用をお願いします。また、当日に発熱や咳等の症状がある場合は会場への参加をご遠慮ください。

〈テレビ会議システムでの参加〉

- ・別紙を参照ください。

期日：令和4年12月21日(水)
場所：兵庫県立神戸特別支援学校

ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業研究発表会

事業説明

兵庫県教育委員会事務局特別支援教育課

1

内 容

- 1 研究の概要
- 2 研究指定校の計画概要
- 3 今年度の県外視察から

2

I 研究の概要

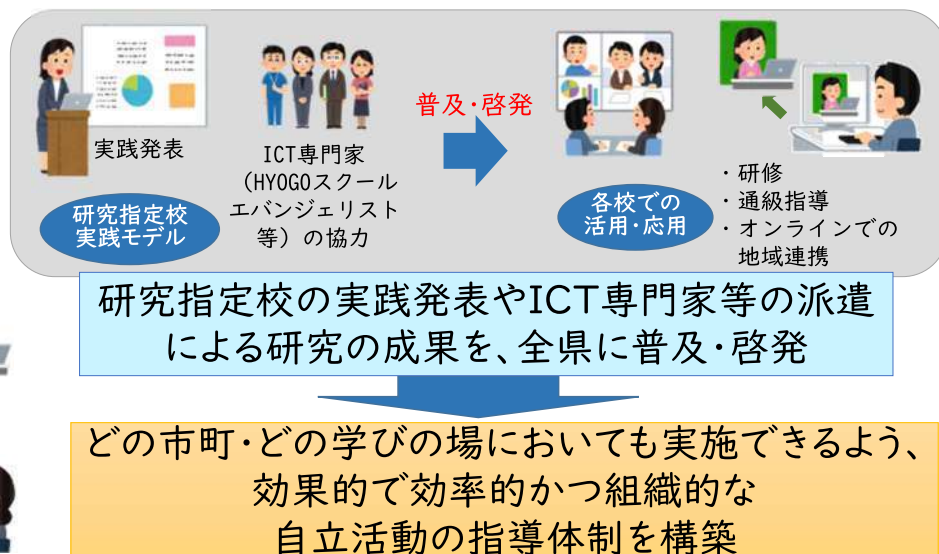
3

研究の概要(R3～R4)

目的

ICT機器の効果的な活用を進める中で、遠隔システムを利用した障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための自立活動の指導及び遠隔による通級による指導について研究し、障害のある児童生徒の学びの保障とICT活用に関する教職員のさらなる資質向上に資する。

- (1) ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方検討会議
- (2) 研究指定校による調査研究
- (3) 研修会・研究発表会の実施



4

(参考) HYOGOスクールエバンジェリスト

- 各学校により整備されたICT環境等を効果的に活用し、「公正に個別最適化され、創造性を育む学び」を展開するために、新しい時代に求められる教育への深い理解と、それを実現するための授業スキル・ICT活用スキルを持つ教員(87名)。

●令和4年度「HYOGOスクールエバンジェリスト」派遣事業

県教育委員会及び各市町組合教育委員会等主催の各種研修会等に「エバンジェリスト」による実践発表を希望する団体に派遣を行う。

【内容】

1人1台端末、ネットワーク環境、教育用クラウドサービス等を活用した実践発表及び情報技術に関する技能についての演習

5

年間スケジュール(案)

時 期	内 容
4月	研究指定校 打合せ
5月	研究計画書 作成 県)ICT活用推進委員会
6月17日	第1回 ICTを活用した自立活動の効果的な指導検討会議
6・8月	自立活動リーダー育成講座(兵庫県立特別教育センター) 県)ICT活用推進委員会
10月	第2回 ICTを活用した自立活動の効果的な指導検討会議
12月	ICTを活用した自立活動の効果的な指導 研究発表会 県)ICT活用推進委員会
1月	第3回 ICTを活用した自立活動の効果的な指導検討会議 研究報告書 作成
3月	国への報告 つながるe-ブック(仮称)の作成 県)ICT活用推進委員会 ICT活用推進ガイド作成

※ 部門ごとに、グループでの情報交換会を、年間5回程度設定

6

2 研究指定校の計画概要

7

令和4年度 研究指定校の計画概要

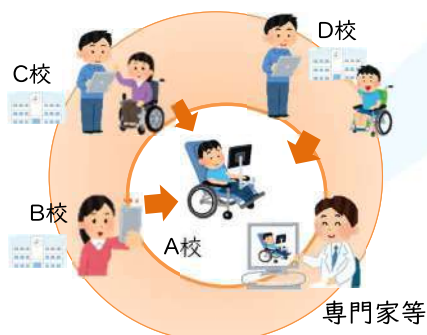
研究指定校による調査研究

- ・知的障害部門 3校（姫路しらさぎ、むこがわ、あわじ特別支援学校）
- ・肢体不自由部門 2校（西はりま、神戸特別支援学校）
- ・聴覚障害部門 3校（神戸聴覚、姫路聴覚、豊岡聴覚特別支援学校）
- ・LD、ADHD等通級部門 1校（阪神昆陽高等学校）

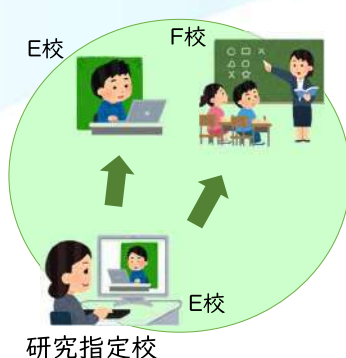
- ★障害のある児童生徒の学びの保障
- ★ICT活用に関する教職員のさらなる資質向上

「ひょうごつながるe-ブック」
（仮称）の作成

① 専門家等による助言



② 遠隔による通級指導



③ 学校間のネットワーク



8

知的障害部門の計画

続

新

新

	姫路しらさぎ特別支援学校	むこがわ特別支援学校	あわじ特別支援学校
テーマ	個別の教育支援計画・個別の指導計画の効率的な作成と効果的な活用・共有	遠隔での児童生徒及び保護者への支援と連携並びに外部専門家との連携の在り方	訪問教育児童生徒とのオンライン授業交流
対象	全教員、全校児童生徒	小2(1名) 小6(1名)	小2(1名) 小5(1名)
使用機器等	校務支援システム、Google Meet、PC、Webカメラ、スピーカーフォン等	Google Work space、PC、電子黒板等	タブレット端末、スタンド、Webカメラ等
概要	「自立活動チェックリスト」や「個別の指導計画作成手順シート」等を活用し、効率的に作成し効果的な実践につなげる。地域支援では、遠隔システム等を活用し、事例に沿った計画作成や実践の支援を行う。	自閉症児に対するアニメーション動画を利用したソーシャルスキルトレーニングや、遠隔システムによる保護者支援と外部専門家からの指導助言を受ける。	始業式や終業式、授業(音楽)を家庭とオンラインでつなぎ交流する。その際、DropTalkアプリを利用し、表出コミュニケーションの助けとする。

9

肢体不自由部門の計画

続

新

	西はりま特別支援学校	神戸特別支援学校
テーマ	外部専門家による指導助言を生かした児童生徒の的確な実態把握と効果的な自立活動の指導の在り方	外部専門家と継続的な連携による授業改善と教員の指導力の向上
対象	小2、小5、中2、中3、高3(各1名)	小学部6名、中学部4名
使用機器等	遠隔システム(zoom、Facetime)、PC等	遠隔システム、PC、スピーカーフォン等
概要	動画や写真を撮り、外部専門家へ相談する。また、自立活動の指導動画を教材として作成・公開し、家庭と共有する。	自立活動の授業改善と自立活動「身体の動き」について、来校指導及び遠隔指導による職員研修を実施する。

10

聴覚障害部門の計画

	神戸聴覚特別支援学校 続	姫路聴覚特別支援学校 続	豊岡聴覚特別支援学校 続
テーマ	オンライン交流と障害認識	対面での通級とオンラインでの通級を組み合わせた効果的な学習の定着	外部専門家の指導助言を受けた指導内容の工夫・改善
対象	中1(8名)、中2(6名)、中3(4名)	中1(1名)、中3(1名)	中3(1名)
使用機器等	遠隔システム(zoom)、PC、タブレット端末、ヘッドセット	Google Meet、マイク、スピーカーフォン、ホワイトボード、Chromebook、ヘッドセット	遠隔システム(zoom)、PC、タブレット端末、マイク、Webカメラ、ホワイトボード
概要	オンライン交流に向けて情報の伝え方について考えさせ、機器を通じた聞こえの自覚を図らせる。そして他の通級生と共に活動する経験を通して、仲間意識を育ませる。	1名又は2名同時に通級指導を受け、ホワイトボードを用いて、発信受信の確認を瞬時に行い、情報保障を図る。事後学習では、オンラインでの通級指導の振り返りを行い学習効果を確認する。	対面とオンラインによる指導を併用し、生徒の語彙の拡充とコミュニケーション向上を図る。外部専門家から指導助言を受け、担当教員の通級による指導の専門性向上を図る。

LD、ADHD等通級部門の計画

	阪神昆陽高等学校 新
テーマ	生徒の卒業後を見据えたコミュニケーションスキルの獲得や向上や定着を強化する取組
対象	巡回校(高校生2名)
使用機器等	遠隔システム(zoom)、PC、チャット機能等
概要	生徒がフリートークで相手を意識した会話や心情語ゲームを通して、自分の苦手な状況について自分の言葉で話す経験を積ませる。新たな取組としては、生徒同士でオンラインでつながる取組を行う。通級指導教員は、対面での指導とオンラインによる指導のそれぞれのメリットを考え、教材等を整理する。合わせて、巡回校の教員とも、リモートを活用した教育相談や打合せを行う。

3 今年度の県外視察から

13

県外視察の目的

ICT活用に関する先進校の見学及び協議により、遠隔システムを利用した、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための自立活動の指導や教育相談等の工夫を学び、今後の取組の参考とするとともに、兵庫県内の教職員のICT活用等に関する資質向上に資する。

14

訪問 及び 訪問先

1 訪問者 県教育委員会担当者2名、研究指定校教員5名 計7名

所 属	名 前
兵庫県教育委員会事務局特別支援教育課	乗松 宏美
	井本 好美
兵庫県立神戸聴覚特別支援学校	福西 岳人
兵庫県立姫路聴覚特別支援学校	山下 豊久
兵庫県立おこがわ特別支援学校	式部 義信
兵庫県立神戸特別支援学校	齋藤 琢哉
兵庫県立あわじ特別支援学校	西田 望

2 訪問先 岡山県健康の森学園支援学校
(岡山県新見市哲多町大野12034-5)

15





学校概要

- ・通学区域：全県学区
- ・在籍者数：56名（小21名、中3名、高32名、うち訪問2名）
- ・以前は全寮制、現在は希望入寮制　56名中51名が利用
- ・学園施設が運営

（指導方針）

- 1 広大な自然環境
- 2 学園内の連携
- 3 少人数によるきめ細やかな指導
- 4 寄宿舍と学部による24時間教育

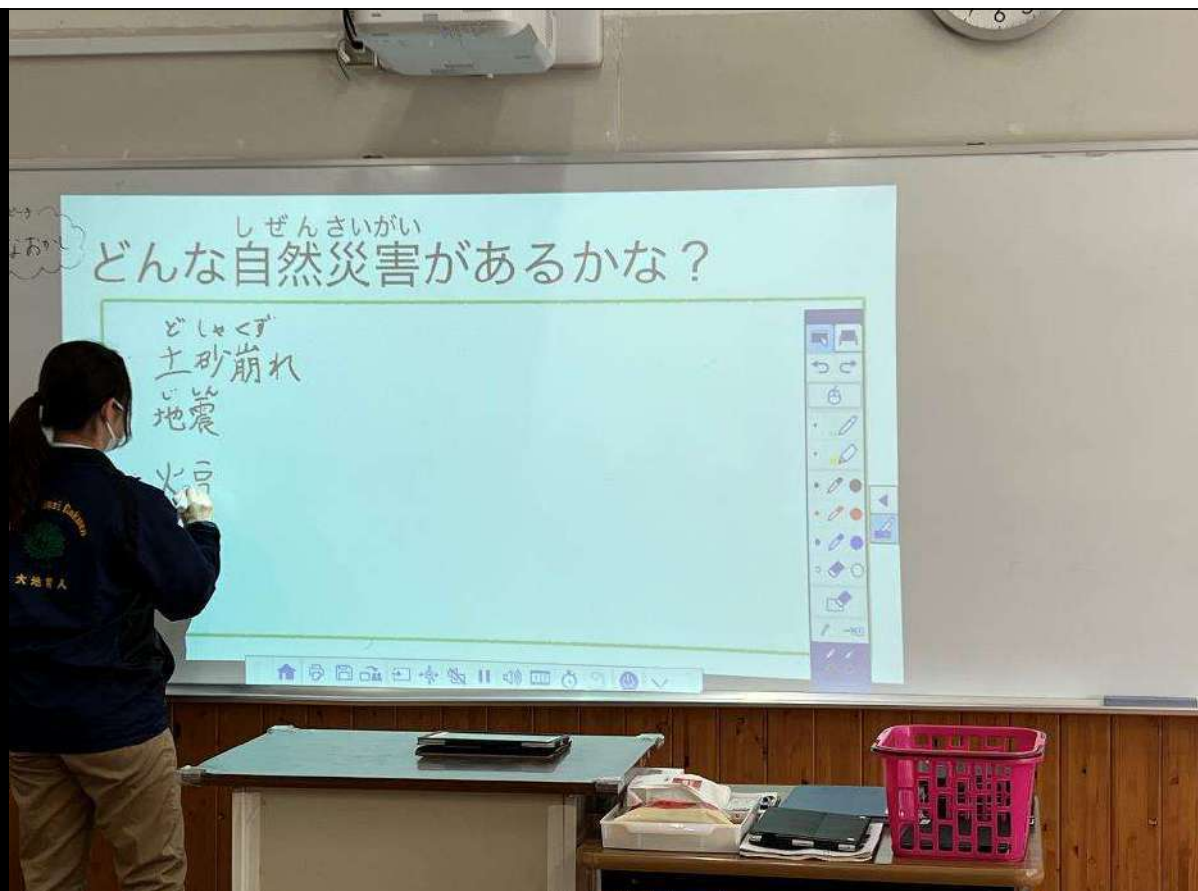
ICT活用の様子①

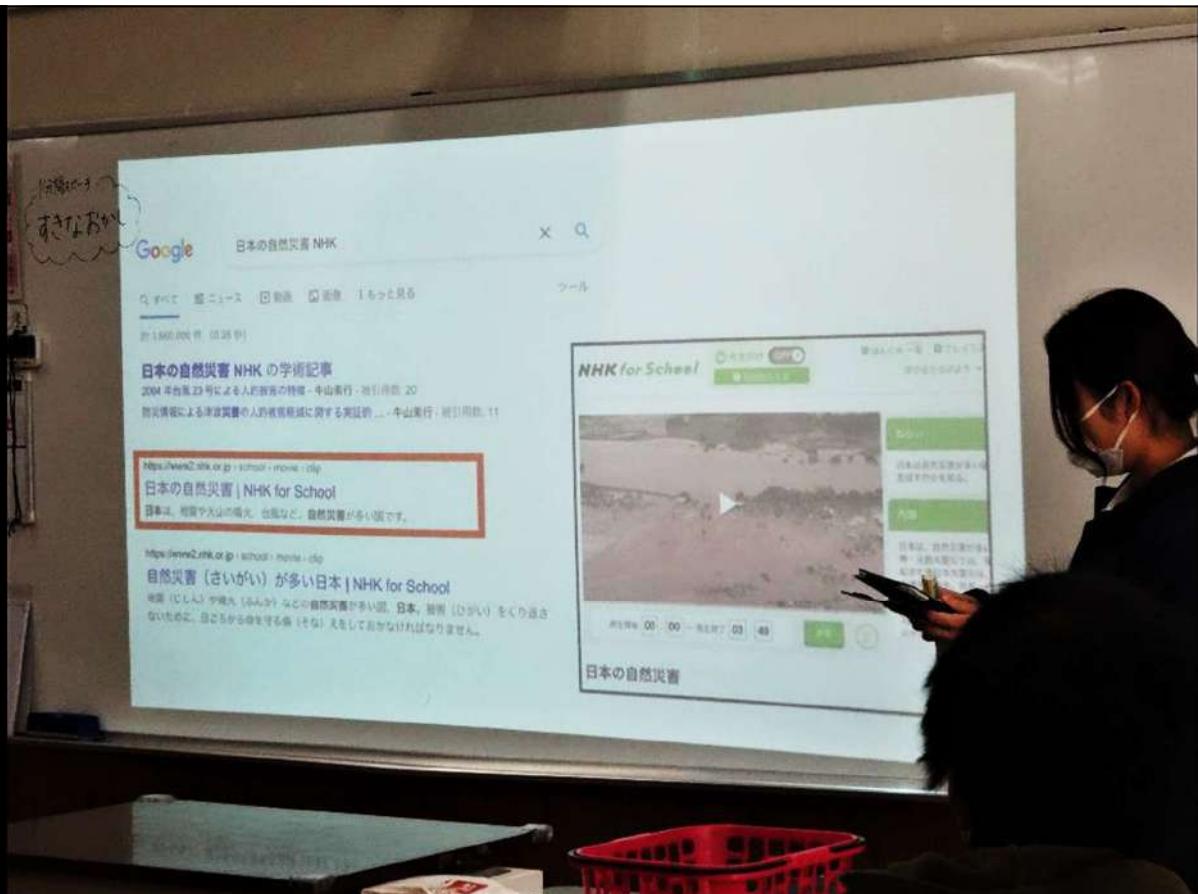
授業等での成果

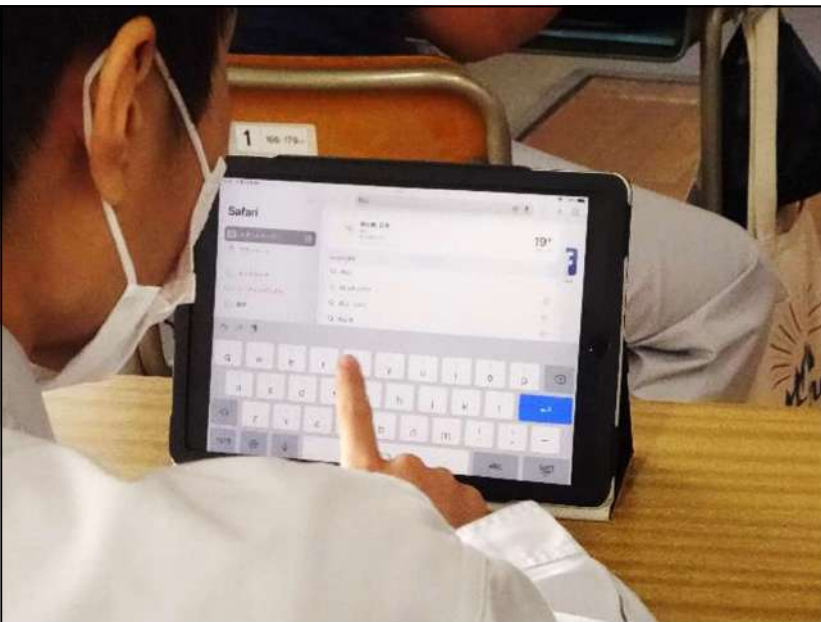
- マークアップ機能を使用することで、意思表示できた
- タブレット端末を拡大操作し、音読ができた
- タブレット端末を校外学習で使用し、
 - ・目標等を文章化（Google Formsで選択し、原稿作成）できた
 - ・買い物時の計算（計算機使用）ができた
 - ・写真や動画で活動を振り返ることができた
 - ・写真を使って新聞を作ることができた

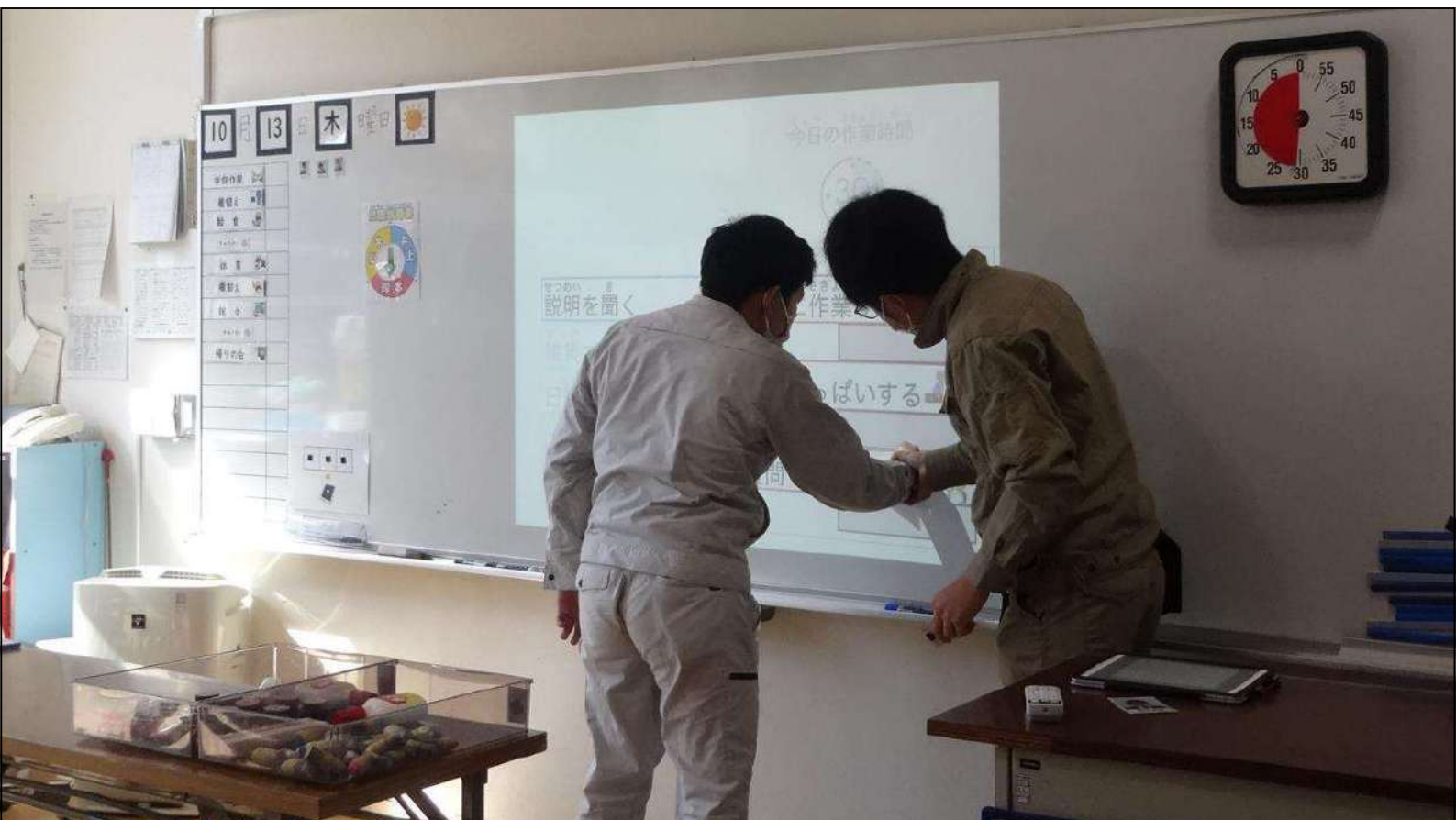
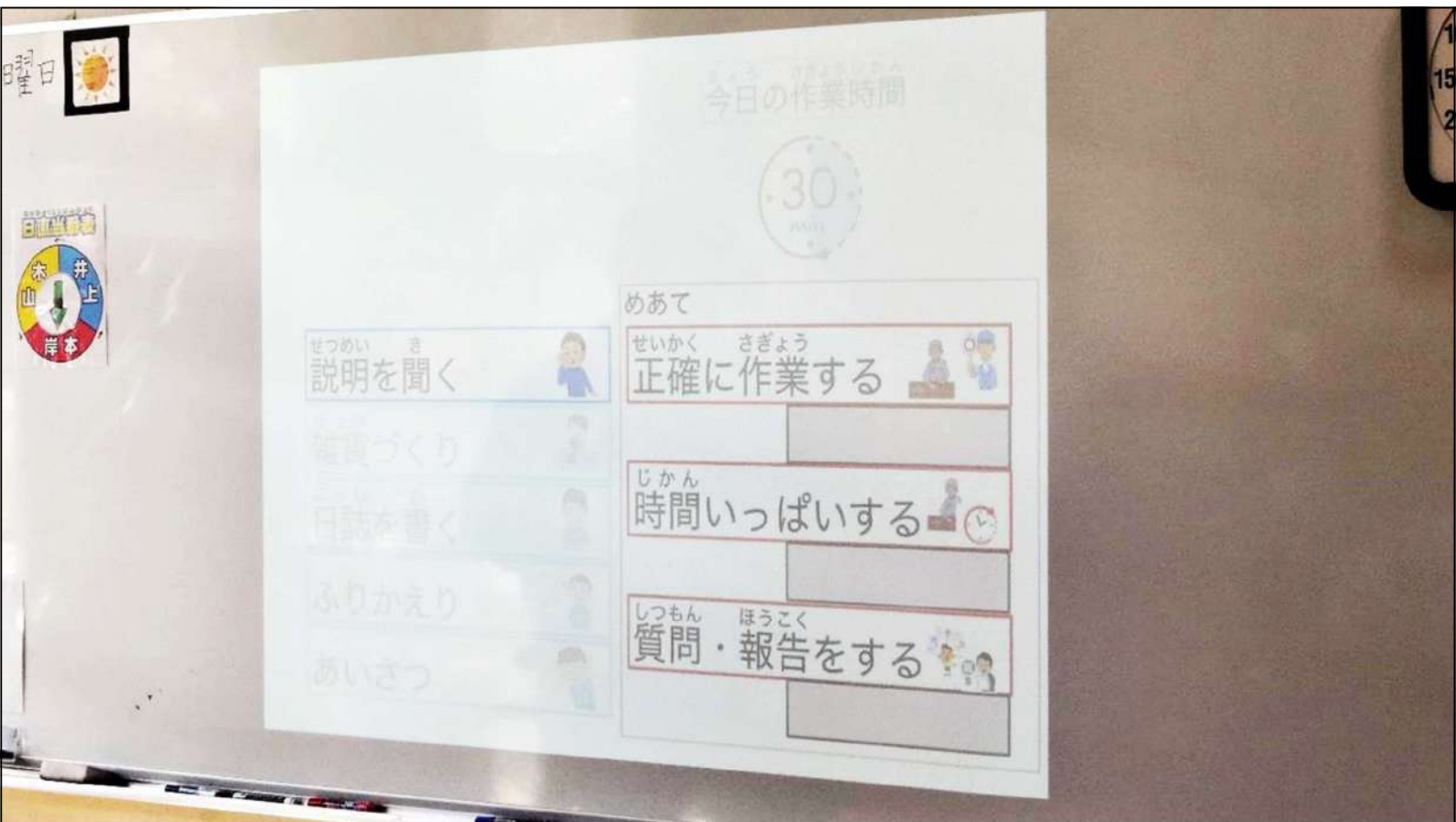


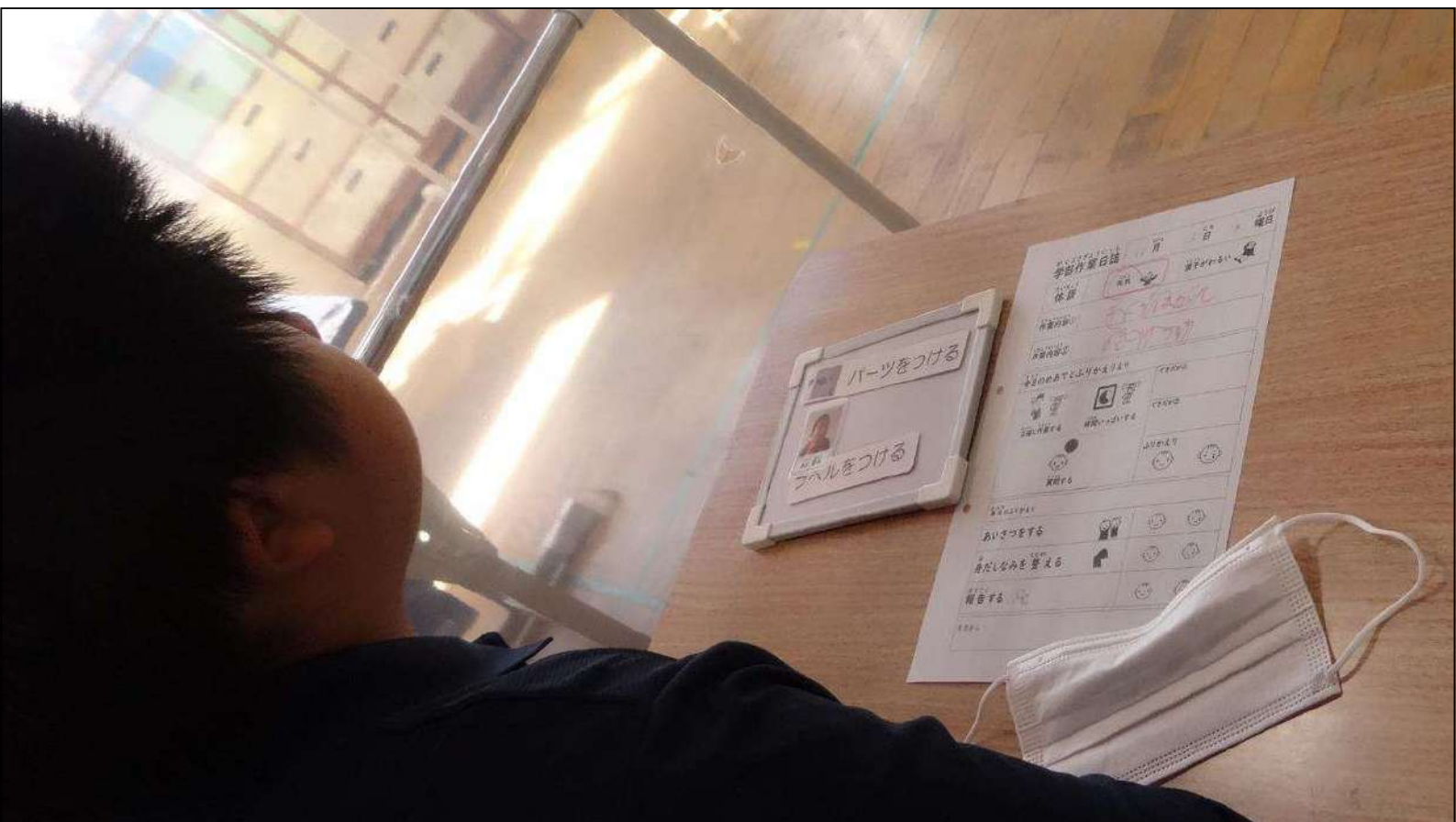
19



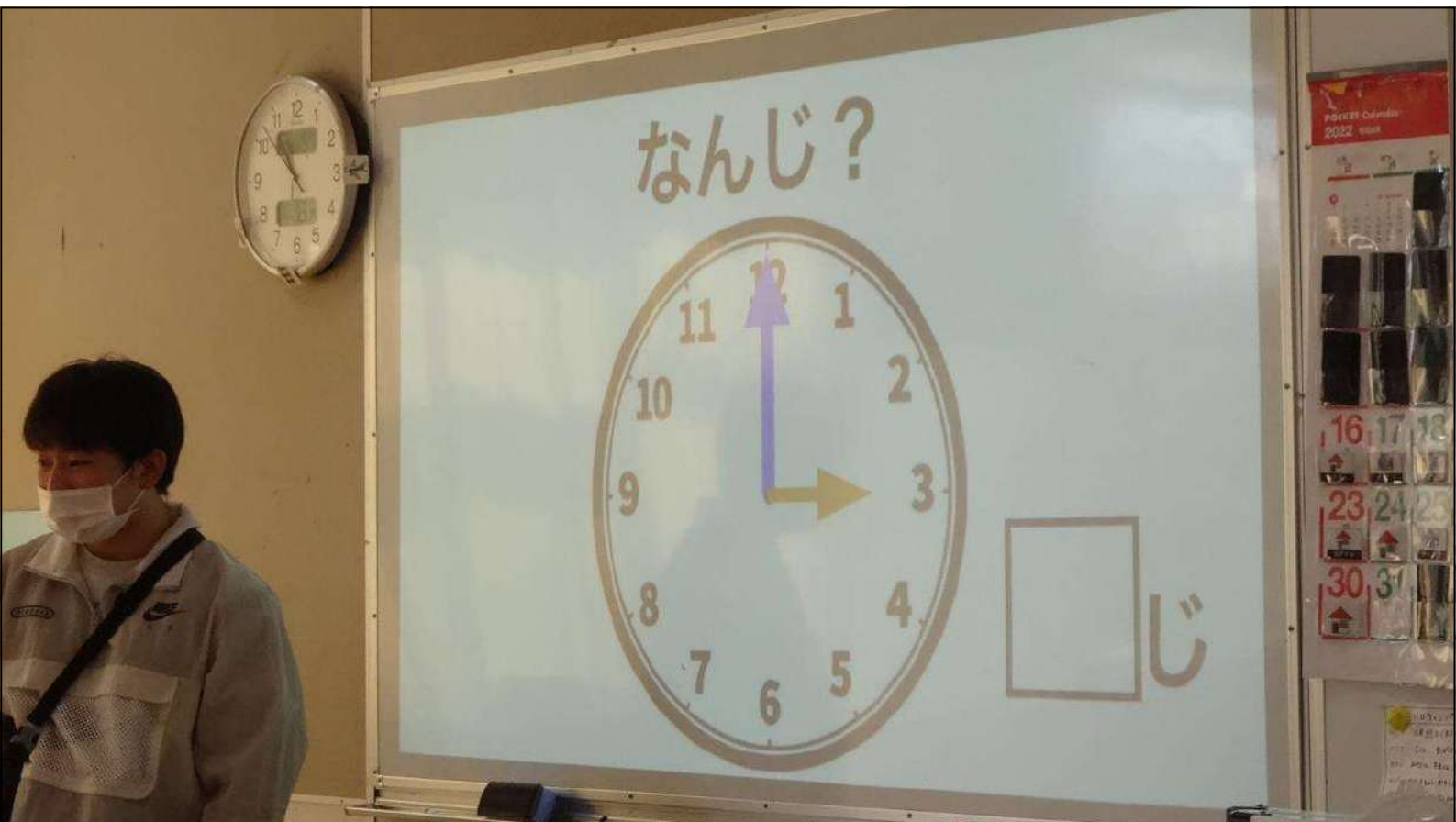












ICT活用の様子②

周辺機器の利用①

- ドローンを使って上空から撮影し、学校紹介ビデオを作成することができた
- ・ビデオ編集は、操作が得意な生徒が実施した（音楽、文字入れなど）



操作すると動き、画面が変わることで、非常に集中して実施できた

33

ICT活用の様子③

周辺機器の利用②

- パソコンに接続したレーザー加工機を使って、木片にデザインを焼き付けることができた
- ・美術の選択肢の一つとして実施した



- ・13人全員が選択した
- ・パソコンを自分で操作し、焼き付けるため、パソコンレーザー加工機を使ってみようという意欲が高まった

34

ICT活用の様子（オンラインの活用）

授業での活用

●オンライン授業（対面との併用）

- ・学校ホームページに、オンライン配信の時間を掲示し、リンクをクリックすることで受講できる
- ・ホームページからクリックする時に、メールで通知したパスワードを入力して視聴する



Google Classroomと比べ、

- ・ログイン操作が簡単であった
- ・パスワードを忘れたという問合せがなくなった

35

ICT活用の様子（オンラインの活用）

行事での活用

●オンライン集会

- ・各教室から接続し、クラスの発表会を実施した
- ・訪問生は家庭から接続した



画面に映像が出るので、
見るところが限定され、
子どもたちは、注視しやすかった



36

ICT活用の様子（オンラインの活用）

自習等の工夫

●自作教材の限定配信

- ・YouTubeの公式ホームページから、ビデオ教材を配信している（タブレット端末を持ち帰らせる）

解答の提出

●Google Forms で課題を提出するよう、ホームページにリンクを設定している



きちんと提出しており、出し忘れ等が減った

37

ICT活用の様子（オンラインを併用）

家庭との連携

●ビデオ参観

※保護者同意、情報管理の徹底

- ・ビデオ撮影し、タブレット端末に保存、持ち帰り



家族全員が参観できたと、大変好評であった

●遠隔参観

- ・1週間設定し、いつ参観してもよい（希望時間連絡制）



訪問籍の子どもへの巡回指導を実施

接続回数が増え、祖父母も参観できた

38

ICT活用の様子（オンラインの活用）

交流及び共同学習

●遠隔で地域の学校との「作業学習」

- ・作業者の手元
 - ・作業する際の説明者
 - ・作業をしている人
- を撮影し、画面切り替えを行う



作業学習などは、「直接交流」でなければ実施が難しいと考えていたが、作業者の手元に注目したり、質問が活発になったりして、双方の学校ともが、とても積極的に交流し、学習できた

39

ICT活用の様子（オンラインの活用）

企業との連携

●遠隔指導

- ・校内実習の様子を撮影し、企業の方から、委託作業の検品を受けたり、技術指導いただいたりした

- ・画面の向こう側にいる企業の方に、対面で指導を受ける時と変わらず、応答等ができた
- ・物理的に部屋の中に人がいないので、見られているという緊張感が少なく、平常時と同じように実習に取り組むことができた



40

ICT活用の様子（オンラインの活用）

校務での活用①

- 資料を共有ドライブで配布している（ペーパーレス）
- 行事のアンケート、学校自己評価（保護者・教員）等を、Google Formsに入力して回答している
 - ・ アンケートは職員用Google Classroomに、リンクを貼って行う
 - ・ 寄宿舎職員を交えたアンケートは、QRコード又は、共有タブレット端末で行う 3割が活用
 - ・ 保護者には、紙媒体とQRコードを併用して実施している

41

ICT活用の様子（オンラインの活用）

校務での活用②

- パソコンで勤怠管理を行っている（県教委が導入）
- 職員研修で、Google Jamboard を活用し、児童生徒の実態と、目指す姿の明確化の話し合いを、付箋を使わず行った



機能の説明の研修だけではなく、
実際の校務に使う → 習熟していく一番の方法

42

県外視察のまとめ

- 1 いつでもタブレット端末を使えるようにしておく
- 2 どんな簡単なことでも、タブレット端末を使用する場面
を設ける（**子どもたちの文房具**）
- 3 リモートで児童生徒がタブレット端末を活用する場面
を増やす
- 4 タブレット端末やパソコンを使って動く周辺機器を充
実させる
- 5 校務に積極的にICTを取り入れ、**教職員に便利さを
実感**してもらう → 教職員の学びにつながる

授業参観（録画）

「児童生徒の実態に応じた ICT を活用した自立活動の取組」